

お知らせ

1. 件名 天然記念物・国内希少野生動物種「イタセンパラ」の木曾川への2度目の試験導入の実施について

2. 概要

イタセンパラは、国の天然記念物・国内希少野生動物種であるコイ科の淡水魚です。

淀川水系、木曾川水系、富山平野のみに分布し、個体数・生息域が減少傾向にあるなか、生息環境の悪化等に起因する絶滅の危機が増している状況にあります。

これまで、木曾川におけるイタセンパラの絶滅を回避するために、木曾川水系イタセンパラ保護協議会において試験導入の方法等について継続的に議論してきたところです。この度、木曾川において試験導入を実施し、生息地への再導入の適切な手法、手順、実施体制等を確立させる必要があると判断し、以下の施設で人工繁殖させた遺伝的多様性の維持された木曾川個体群のイタセンパラを木曾川へ2度目の試験導入を実施しましたのでご報告します。

木曾川では、平成30年10月に1度目のイタセンパラの試験導入を実施しており、今回はそれに続く2度目の試みとなります。これまでに蓄積された知見を活かしつつ、今回はさらに導入個体の定着や生息環境の改善状況も検証し、より効果的な保全手法の確立を目指します。

イタセンパラの試験導入後には、密漁対策と仔稚魚の出現状況等のモニタリング調査を実施し、導入後の評価を行い今後の対応を検討します。なお、今回の試験導入の場所については、密猟防止の観点から非公開としています。ご理解とご協力をお願い致します。

3. 人工増殖施設(開始年順)

世界淡水魚園水族館(アクア・トぎふ) 2010年開始

名古屋市東山動物園 2011年開始

碧南市碧南海浜水族館 2012年開始

岐阜県水産研究所 2013年開始

4. 実施日時 令和7年7月下旬、9月上旬(2回に分けて実施)

5. 実施場所 木曾川(愛知県側:詳細な場所は密漁を防止する観点から非公開とします。)

6. 状況写真



導入した個体



放流状況



イタセンパラ増殖施設及び環境省担当者

7. 導入個体数 約 90 個体

8. 解 禁 指定なし

9. 配 布 先 中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、愛知県広報広聴課、一宮市記者クラブ、羽島記者クラブ

10. 問合せ先

環境省 中部地方環境事務所 野生生物課 課長 村井 智宏
外来生物企画官 堀部 翔
自然保護官 伊藤 太順
tel:052-955-2139

イタセンパラとは？

イタセンパラの特徴

コイ目－コイ科－タナゴ亜科－タナゴ属

生息場所：河川内の流れの緩やかなワンドやたまりに生息。

産卵：秋季にタテボシガイなどの二枚貝に産卵する。孵化仔魚はそのまま貝内で越冬し、翌春水中に泳ぎ出る。1年で成熟し、寿命は約1年。

食性：稚魚の間は動物プランクトンを補食するが、成長と共に付着藻類を餌とするようになる。



・平べったく四角い体形と大きなヒレが特徴。

・産卵期(秋)になると雄の体には鮮やかな紫紅色の婚姻色が表れる



タテボシガイ



河川内の流れの緩やかなワンドやたまりに生息

木曽川のワンド

分布

日本固有種

- ①濃尾平野
- ②富山平野
- ③琵琶湖淀川水系に生息



生息地は世界でこの3箇所だけ

絶滅危惧

国の天然記念物
国内希少野生動植物種
国のレッドリスト絶滅危惧IA類



比高差拡大による冠水頻度の低下



底泥、枯れ枝の堆積

減少要因
生息環境の悪化
外来魚の影響
密漁



密漁



ブルーギル